

Correlation between the changes in the EPIC QOL scores and the dose-volume histogram parameters in high-dose-rate brachytherapy combined with hypofractionated external beam radiation therapy for prostate cancer

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 弥一郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31343

主 論 文 の 要 旨

Correlation between the changes in the EPIC QOL scores and the dose-volume histogram parameters in high-dose-rate brachytherapy combined with hypofractionated external beam radiation therapy for prostate cancer

(前立腺癌における寡分割外照射併用高線量率組織内照射後の EPIC QOL スコアの変化と線量体積ヒストグラムパラメーターとの相関関係)

東京女子医科大学放射線腫瘍学教室 (主任: 唐澤久美子 教授) 橋本 弥一郎
Japanese Journal of Clinical Oncology, 2015, 45(1) 81-87 Doi: 10.1093/jjco/hyu173

【要 旨】

放射線治療技術の進歩に伴い、前立腺癌において種々の放射線治療が行われている。その中でも外照射併用高線量率組織内照射は、線量集中性が高いため、治療効果の高い放射線治療として受け入れられている。一方で、治療法選択の際、治療効果だけでなく治療後の QOL も重要視されるようになってきた。本研究の目的は、前立腺癌における寡分割外照射併用高線量率組織内照射後の QOL の変化と線量体積ヒストグラムパラメーターとの相関関係を解析することで、治療後の尿路領域の QOL に影響を与える因子を明らかにすることである。対象は、2007 年 3 月から 2010 年 9 月の間に当院で局所限局性前立腺癌に対して寡分割外照射併用高線量率組織内照射を行った症例のうち、経過観察期間が 24 か月を超えた 118 症例とした。QOL の評価として、EPIC (the Expanded Prostate Cancer Index Composite) の尿路領域を用いた。QOL は、治療後 1 か月で低下し、治療後 3 か月でほぼ治療前まで回復した。QOL と高線量率組織内照射時の線量体積ヒストグラムパラメーターとの間で相関関係を解析したところ、前立腺 V150 (処方線量の 150% が占める標的前立腺の体積) と尿道 D10 (尿道体積の 10% が照射される吸収線量) に有意差が認められ、前立腺 V150 と尿道 D10 が治療後の QOL に影響を与える因子である可能性が示唆された。